

**S11**

**手話の洒落とは**

**パウロ・ジェファーソン・ピラル・アラウージョ、タイジー・ベンテス  
(ロライマ連邦大学 [ブラジル])**

**要旨**

Klima & Bellugi (1979) の画期的な研究以降、手話言語がどのようにして言葉遊びを行うのかを扱う研究は少ない。本発表では、手話言語で言葉遊びを行う言語的メカニズムを、音声言語と対比しながら提示する。ここではアメリカ手話とイギリス手話から事例をひく。また、『不思議の国のアリス』に現れる言葉遊びを音声言語（ここではポルトガル語）から手話言語（ここではブラジル手話）に訳す際に翻訳者がとった手法も検討する（Araújo & Bentes 2016）。我々の主張は、言葉遊びプロセスの理解を深めるためには、手話言語の言葉遊びの言語的な次元だけでなく、ろう者文化とろう者の独特のユーモアについても探求する必要があるというものである（Sutton-Spence & Napoli 2009）。もうひとつ手話言語の言葉遊びに特徴的なのは、手話言語と音声言語を混ぜ合わせてある種の借用混成語を作り、音声言語に由来する形態音韻論的要素を借りた言葉遊びを行うことができる点である。その際に興味深いのは、そのように形成される言葉遊び表現が、Battison (1978) によると、借用語に課される音韻論的制約に従っている点である。

**キーワード：**言葉遊び、手話言語、借用語、ブラジル手話

**参考文献**

- Araújo, P. J. P. & T. Bentes. 2016. (Un)punslatable Alice in Signland: Wordplays in Brazilian Sign Language (Língua Brasileira de Sinais-LIBRAS). In S. Knospe, A. Onysko & M. Goth (eds.), *Crossing Languages to Play with Words: Multidisciplinary Perspectives*. pp. 337-356. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Battison, R. M. 1978. *Lexical Borrowing in American Sign Language*. Linstok Press: Burtonsville, Maryland.
- Klima, E. & U. Bellugi. 1979. *The Signs of Language*. Cambridge: Harvard University Press.
- Sutton-Spence, R. & D. Jo. Napoli. 2009. *Humour in Sign Languages: The Linguistic Underpinnings*. Dublin: Trinity College Dublin.